

名誉園長の部屋

★ これからの催し ★

★公開シンポジウム

“自然文化都市 京都 — 自然・人・歴史”

において、松谷名誉園長が講演を行います。

講演『北山の近代化と京都府立植物園
～植物園の歴史から眺めると～』

シンポジウム日時 12月18日(土) 午後1時から午後4時30分

会場：京都府立総合資料館 講堂

参加費無料・申込不要

○名誉園長さんときまぐれ散歩

・12月19日(日) 午後1時から
植物園会館前集合 先着30名

11月のホンマモンの植物

待ちました! 今年は、目の前でもはっきりと!! ン、ケガの功名?

実は、心配していたのです。何日か前、この植物の前を通ったとき、茎が数本倒れていたのを見てしまったからです。アッ、やられたのか!と思いました。

メキシコ原産で、ダリアの原種であるコダチダリア(コウテイ(皇帝)ダリアで流通している)の栽培・展示は、今まで、自然現象とのたたかひの連続でした。

植栽の初年度、植え付けた場所(園路側のもの)が台風の風の通り道となり、全倒し全滅。

茎の高さが5メートルにもなり、その上の部分に花をいくつもつけるから、当然重心が不安定、そこへ台風。翌年から、竹の柵で囲いを作りましたが、その柵も年々進化して昨年からは頑丈なパイプ柵となりました。この植物は、霜にあうとダメとの情報を得ていたから5メートルのさらに上、寒冷紗を張りました。これは大正解。しかし、見栄えが確かに悪い、けれど、担当者としては少しでも長く咲かせてお客様に楽しんで欲しい。葛藤がはじまります。次の年、気候馴化しているかもしれないし、少々の霜なら大丈夫だろうと高を括り霜対策をとらなかった。そんなときに限って霜が来る。それも二日連続だ。一日目はセーフだったが、二日目はアウト。花はとろけたようになりつぼみも黒く変色し、全滅。

そこで今年です。しばらくして訪れたとき、感激で涙が出そうになりました。やってくれました。倒れた茎に手厚い支えです。プロの技をじっくり見てください。支柱にアソビ・余裕の幅をあけてヒモでくくっています。コダチダリアもそれに応えるかのように咲いてくれました。ニコニコと喜んで下を向いて咲いています。いや、担当者が咲かせてくれました。

野生植物の持つすさまじいまでの生き続けようとするDNAに驚くと同時に、茎は倒れた、でもあきらめずに、なんとか花を咲かせてみせよう、とする栽培担当者の心意気・情熱を感じながら、御覧いただくことを心から願います。



コダチダリア全景



折れた茎



支柱への括り



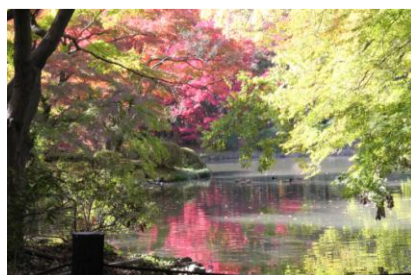
花 2010.11.19 現在



名誉園長

松谷 茂

今、これを見てほしい!



紅葉銀座

2010.11.19 現在紅葉真っ盛りの植物園、毎日でも行きたい植物園